

莊嚴なる神苑ここに再現

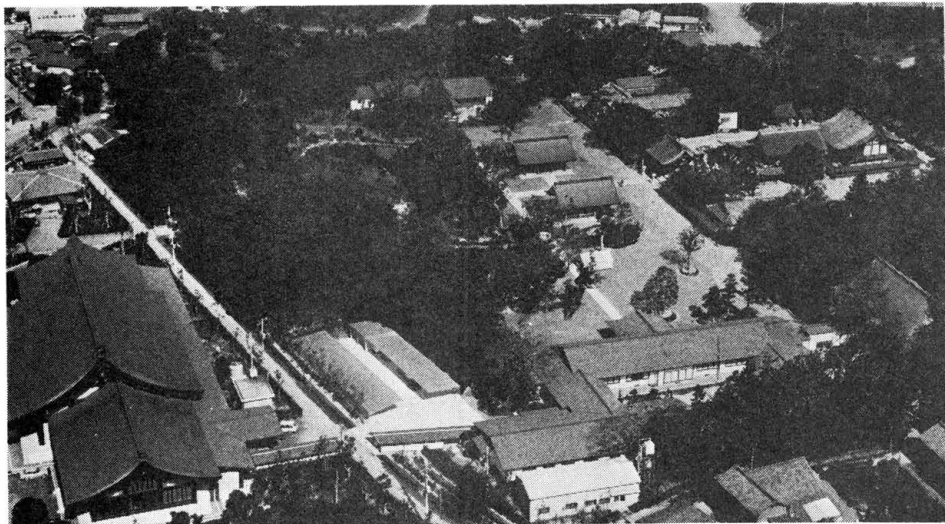


写真 左端の大屋根は祈願殿、中央に心字池がみえる。池上の建物が勅使館、中央参道を挟んで手水舎、被舎。右上に神門、拜殿、本殿がみえる。祈願殿から廊下が齋館に続いている。

宗像

毎月一日発行
社大像宗

福岡県宗像郡玄海町
福井県福井市
電話 宗像 26番
定価 一年送料共 500円

社大像宗
電話 宗像 26番

総工費十億円、二ヶ年で完工

宗像大社復興事業は二ヶ年、十億円を以て、荘嚴雄大な社殿、神苑が誕生した。宗像大社復興期成会が結成されてから三十年にわたる努力の成果である。

中世、隆盛を極めた宗像社を歴史のまに再現、重宝の本殿、拜殿をはじめ勅使館、手水舎、被舎を含め、日本最大の新築は、近代案による社に、特異な存在となつた。

昭和四十六年十月、秋風清朗の好季節に宗像大社復興事業はここに全工事完了した。竣工を指して神苑に「元まし」の宮原の植香も新しく、深い緑の森の中に静かなたたまいをみせている。

昭和四十四年、着手された復興工事は、以来一ヶ年の短期間に、本殿の修復をはじめとして三十余棟に及ぶ諸施設の修築、修繕、並びに植栽範囲による境内整備を終え、その造営の規模は竣工の速さに於て神界史上、稀にみる偉業であったといふに過ぎない。

しかし、この成果を以て満足しては宗像大社復興期成会会長長久佐三氏をはじめとする関係者各位の多年に亘る艱難の道程があった。今ここに含み込めた復興の歩み、ふり返つて眺めてみたい。

宗像大社復興期成会は昭和十七年に結成され、出光正三氏が会長に就任されたが、同会は、先ず神社の由緒を明らかにすべく社史の編纂に着手、爾來三十年に及ぶ年月を費して宗像社史上最大の資料の三巻、二千頁に及ぶ最良の社史が上梓され、ここに当該の尊厳な神苑が世に明らかとされるに至つた。更に昭和十九年より三十二年にかけて第一、第二、第三、復興期成会により神ノ島學術調査が行われたが、その成果については周知の通り「海の正倉院」として学術驚歎の的となり、往時、大和朝廷の当社に對する厚い崇敬の姿を物語る証となつた。こうして神社の尊貴が由緒が明らかとされると共に、往時に倣つて勅使の御参向を願ひ、勅使参詣の声を催すとして起り昭和四十五年上申書、四十二年退願書が提出され、その間請願運動は強しに推進された。こうした情勢の中で、神社境内の大復興整備の機運は大いに高まりつあつたが、時あたかも、当社管内の史跡指定が内

定し、境内の保護保存が緊急として大きク、更にゾーンの重要文化財である本殿の修復保存が決定し、昭和四十四年より二ヶ年の継続事業で解体修理が行われることになり、これを契機として愈々復興工事着手の機は熟すに至つた。昭和四十三年、宗像大社復興計画が立てられ、事業推進の御事は大きな転機を始めた。

計画案の基本構想は、神社前に約六千坪の用地を買収、ここに祈願殿及び駐車場を新設し、参拝車庫を収容し、今後は、車庫の境内内へは勅使館、齋館をはじめ諸施設の修繕、修築を行い、更に心字池の復元改修、植栽造園により荘嚴な神苑を再現せんとするものである。総工費十億円を要する大事業である。ここに復興事業当初の難関は十五の民家の立ち退き移転が、二五五反歩の用地取得であつたが、これは承を得て円滑に妥協的解決を見た。これと並行して、当社水年々の懸案であつた給排水施設が完了した。ここに工事推進の足音が充ちた。一方、本事業協賛の募金活動も高揚化、先ず昭和四十四年三月、約二万円に及ぶ郡内民士の五年計画にも募金運動が始まり、時を九州一、全国の出光興産株式会社社益基金の方による浄財が続々と寄せられ、更にこれを契機として全国の大口募金へと進展し、ここに事業推進の経済的基盤も確立されるに至つた。

昭和四十四年夏、文化庁の指導監督の下に本殿の解体修理が始まつたが、復興工事は、本殿修理の完了する昭和四十六年夏に着手を合せ、全施設の建設を完了する方針を樹て、次に設計担当、監理、監造、建築士、造園工事担当、内山緑地建設株式会社の決定をみて、愈々工事施工の段階を迎えた。

昭和四十五年六月、復興期成会長を始め関係者多数参列の形で起工式が盛に執行され、復興の悲願が胸にこめられ、復興の聲を祝つた。起工式の行の拍手となつて神苑にたまはし、水く社に銘記すべき感激の日であつた。

阿蒙少言

あ若い神祕の対談、切やば眼が光る、頭は秀れた良きが散がらすにけい、

大井 安部 静子
好きと云ふは、夕陽にもせし妻の影が、いとみづかしく、

武丸 原田 リノ
歌はせ、木曾路をのほろ、

光岡 河村 久光
道は、海軍に、たれば防風林のよめのみ、

福岡 吉田 信夫
秋風、や、野辺の露に、

津屋 野野 時雄
秋の月、おのれ、

武丸 原田 まつよ
山吹の、つら、

大 大 東 雲
仲秋の夕陽に、

門 門 哲夫
窓に住む母の影を、

武丸 立石 せん
物忘れ、とき、

宗像 八波 五月
長崎の街に入れば、

津屋 由久
新に、

宮田 片山 朔子
安宅は、

久留米 藤田 太郎坊
防歌の、



第三回 宗像大社歌会詠草

毎月十五日、切 詠草到着順

福岡 江崎 琴子
病弱の夫を支へ、

東郷 藤崎 辰子
若き父の遺言、

曲 天野トモエ
草を取り、

大井 安部 重郎
好きと云ふは、

武丸 早川 須磨
見限り、

光岡 岡北百合子
文明を、

武丸 原田 まつよ
小さい、

宮田 片山 朔子
城下の、

久留米 藤田 太郎坊
防歌の、

つた。以来、工事は遅れず、順調に進行中である。今年には神社前敷取用地の祈願殿、駐車場及び参拝者休憩所が完成し、正面山七ノ米に及ぶ鉄筋鉄骨、全館冷風機の設置、祈願殿に附して祈願所、守札所、参拝者参集所、事務室等の多様な機能を包含し、神界には画期的な建物を立て、大きな反響を呼んだ。本年正月明けを待って、境内の諸工事が斉に開始された。参道を挟んで同型の齋館、手水舎が左右対称に配置し、配置された。

修理中の本殿事が完了し、彩色の社屋内に修復され、本殿周囲の二十棟の附築社も順次修復を終え、齋館、守札所の新築と相俟つて境内の整備を完了した。次に、齋館、勅使館が相俟つて完成、折しも遷宮祭に全願の勅使参向の儀が決定し、神社には二重の喜びを帯びた。

この間、心字池の改修、境内所の植栽造園が進められ、神苑の観念は、一段と深めた。この間、齋館、相俟つた大改修が行われ、更に従来社史に記されていなかった大鳥居、大燈籠、正面参道並びに駐車場入口とそれぞれ移設され、全体構図の調子が図られ遂に全工事を完了した。

宗像の宮苑はここに荘嚴な神苑を再現した。

大鳥居をめぐり、表参道から境内に歩を進むには、神域には森、清浄の風が、次々に身を洗われる思いである。「裏伊勢」と呼ばれる朝野の敬仰厚く、「宗像は、一に賑わった、古の姿ここに再現した」といふので、是れ、数十年、日本民族の魂に、心なる、この宗像の尊厳を、これといふのであつた。

遷宮祭を前にして境内各所の最後の仕立、準備が完了した。古式豊かな世紀の大祭典、執行の日が目前に迫つた。

ここに、本復興事業に御賛賛いた全国各地の崇敬者並びに御賛賛するに、更に、一層の御支援御鞭撻御願ひます次第である。

（白雲）

論説 最後に箸をとる心

仕事の都合上、また体面保持のために、官庁のおろろ方や大任の幹部が、高級車におさまつて比較的確な復讐をするのはやむを得まい。だが、満員電車にすし詰めの通勤に、明け暮れる下級者の思いやりが、心のこけに働いている職場の統率者がこれほどあるだろうか。

雑家の遠慮は言。統率者は使われる者のあまり物を畏れよ、よいかの名言。

漢の高祖を語れば、話はお蔭の中国、時代もかばなれた古を感じず、天下平定のために各地の暴逆を懲り、万民安楽の理想を実現し、部下の労苦を第一の心得した王侯も少くなくあろう。わが国に於いても、兵のあま物な食つてその困苦を心に刻んで大事を成した「殆んが妻子ある兵隊である。国家のため

「この異国の土に起して、明日の知れぬ命に生きている。誰しも家族の安否を思つて心は同じ、ましてや生活を支えた一家の大黒柱である。とて今の将校は何ですか、自傷者出たり戦死者が運ばれたります、その数が多いことを願つていこうな言動、いかに激怒して、いかに戦死を見てもらふか、それが彼等の出世主義の通つた商人です。表面的教養だけ身につけた商人です。自らの栄誉だけで貴重な生命を失つて内心は平気のエゴイスです。痛論その通りと目撃した場面も少なくない。出世主義の確化を作つたのはいつか、統率に軍医はへた。科長らしい細かい観察をめぐり、口説戦争が遠く、弱肉強食の時代、軍人志願する者達に殉国の至情が動機であった。等國のしつてからの志願者は、出世主義に情を託し、利巧もの多くなつたのではないですか。」

これは何人にもあなを言えまい。立派な軍人精神、愛國の至情に徹した人には、失礼な見方でもせよとれやうが、残念ながら一面の事は軍医の觀察の通りである。

部下を犠牲にして、最後は野草を敷いて腹を刺す心を察するともなかつた指導者が、敗戦惨劇を待たせ悪役は大きいと軍医は合点のしるさう。

滅私奉公、一死報國とは、彼等の職業語に過ぎない。既成の連中は、やがて左遷はなされた。筆者もまたその内の一人である。今日想い出し苦笑するところがあるが、名譽ある左遷に悔いも感じない。

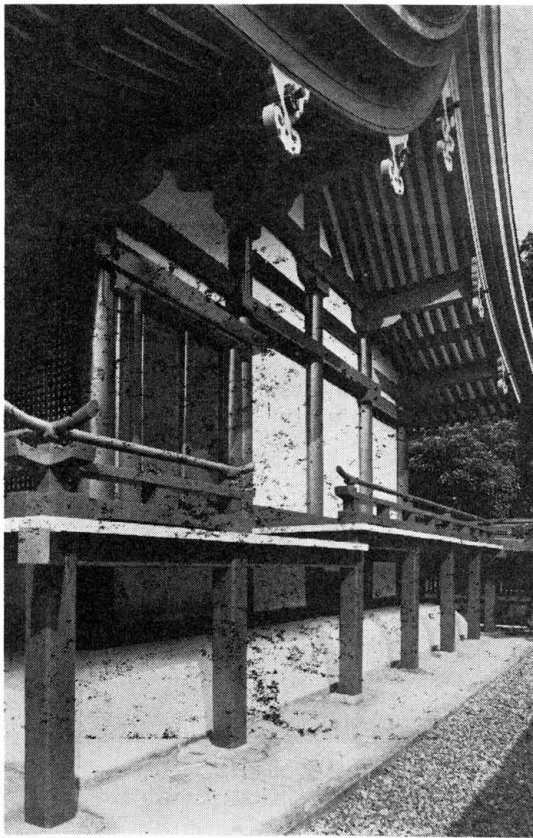
然し、祖國は國民の愛國心を基礎として護つねばならぬ。強國をあてにした他刀本願では、祖國の空を期がしたのである。でもあんな軍隊の組織は再現されたくない。あんな出世主義を信奉するやまな軍人は養成してほしくない。

「あなだけの会社は現在好調に発展してゆきつづありますが、あなの方針の如く運営が続かず不調になつたら、どうされますか」と、これは経済記者がある会社の指導者に質問した言葉。答は次の通り「その時はまず社長とか社長が船を半減する。あとは逐次上級者をしてゆくと。」

漢の高祖をはじめ内外の名將や達達の名將を顧みてもよく、前述の一言で統率者の心は十分である。乃木將軍の兵はみな食つたかと思つて、最後に箸をとつた愛情に通じている。その心が今日の各社の指導者実力者に生きていく限りは、祖國は平穩を繁栄してゆくさう。

最後、箸をとる心、畏れなかつた徳天皇が民の心が盛んに煙をあげる有様に喜ばれた御仁慈、歴代の皇室の一貫した御精神に、國民は思いをめぐらして時勢を察する。

復興工事完成写真集



宗像大社復興事業は、本殿拝殿修復工事を始めとする全復興工事の完成をみ、世紀の大祭典ともいふべき遷宮祭を数日後にひかえた大社の佇まいをここに集録し、完成写真特集として二頁三頁にわたつてその森厳なる神域の模様などを特集した。

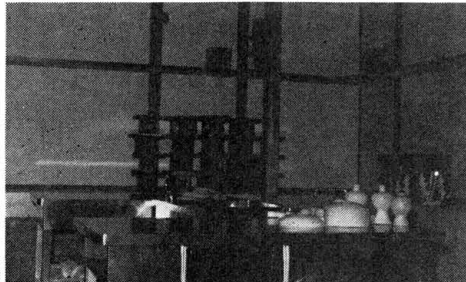
写真上は見事に修復された本殿側面を玉垣内よりみる。

写真下は右は修復された本末社群。整然とならぶ末社が宗像大社の深い由緒を物語る。すばらしいコントラストをみせている。

写真右下は最も機能的、近代的設備を配置した神饌所。

写真左上は拝殿をとりまく様な形にもつけられた提舎。

写真左下はすっかり新しくなり、イメージチェンジされた守札授与所。前方にみえるのは神饌所の外観。



重要文化財宗像神社辺津宮本殿全拝殿主要寸法実測表

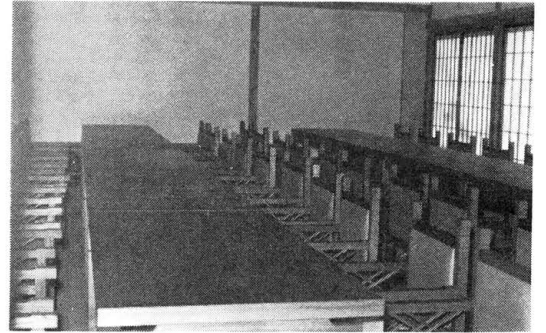
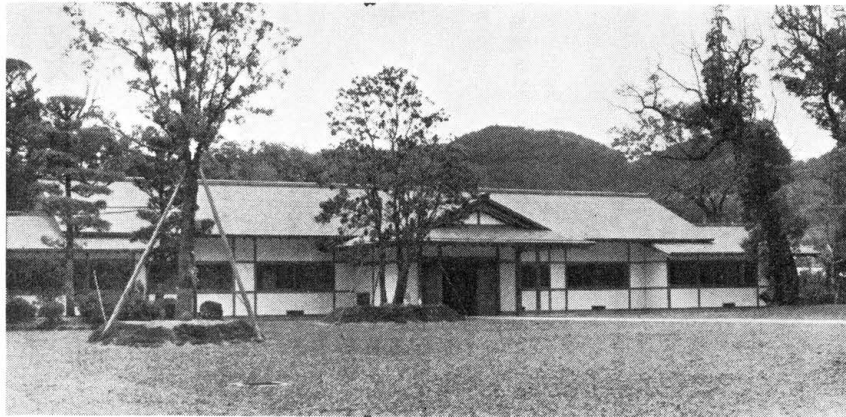
S.43.6.15

工事主任 田原政刀

| 区分 | | 摘要 | | 寸法 | | |
|--------------------|----------------------|---------------------|---------------------------|------------------------|----------|---------|
| 重要文化財 宗像神社辺津宮本殿 | 身舎 | 桁行 | 両端柱間真々 | 31.56尺 | 9.564m | |
| | 〃 | 梁間 | 〃 | 25.22 | 7.643 | |
| | 向拝 | 桁行 | 両端柱間真々 | 31.56 | 9.564 | |
| | 〃 | 梁間 | 〃 | 7.77 | 2.355 | |
| | 身舎 | 軒の出 | 側柱真より 茅負下角まで | 地 3尺99 + 飛 2尺83 = 6尺82 | 6.82 | 2.067 |
| | 向拝 | 軒の出 | 柱真より 茅負下角まで | 地 3尺94 + 飛 2尺39 = 6尺33 | 6.33 | 1.92 |
| | 身舎 | 軒の高 | 側柱礎石上端より 茅負外下角まで | | 12.50 | 3.79 |
| | 向拝 | 軒の高 | 柱礎石上端より 茅負外下角まで | | 12.90 | 3.91 |
| | 棟 | 高 | 側柱礎石上端より 大棟頂上まで | | 29.77 | 9.021 |
| | 平面積 | 軒面積 | 柱真々 身舎 73.098㎡ 向拝 22.523㎡ | | | 95.621㎡ |
| 軒面積 | 茅負外下角及び破風内側面積 | 梁行 13.985×桁行 13.140 | | | 183.763㎡ | |
| 屋根面積 | 平葺面積 | 桁行 14.34m×17.67m | | | 253.282㎡ | |
| 重要文化財 宗像神社辺津宮拝殿 | 桁行 | 両端柱間真々 | 36.0尺 | 10.909m | | |
| | 梁間 | 〃 | | 5.97 | | |
| | 側柱真より | 茅負下角まで | | 1.136 | | |
| | 側柱礎石上端より | 茅負外下角まで | | 3.74 | | |
| | 側柱礎石上端より | 大棟頂上まで | | 7.25 | | |
| | 側柱真々 | | | 65.127 | | |
| | 茅負外下角及び破風内側面積 | | | 107.385 | | |
| 平葺面積 | 梁行 5.5m×2 桁行 14.085m | | | 154.935 | | |

清々しい境内と

木の香漂う齋館・勅使館



写真左 齋館正面
下 祈願殿参集所二階

上 勅使館 餐膳室

齋館

総建坪二百五十坪。これに別棟として機械室、職員控室と大祭要膳室が附属している。

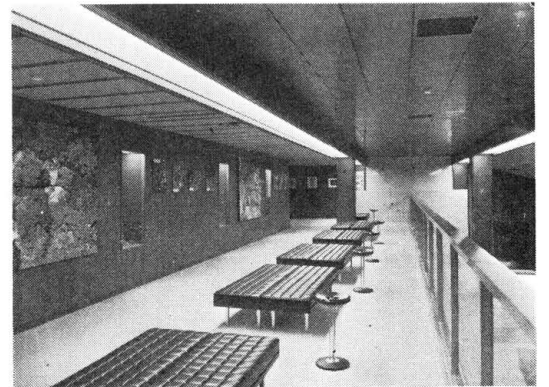
齋館には玄関が三つある。一つは正面の斎庭玄関で、一つは結婚式場側外茶室、一つは職員通用の玄関である。

斎庭玄関は、写真にみえうに、齋館中央部にあり、祭典にあたって、神職、総代、一般参列者全員がここに立ち並ぶ一礼してから殿内へ参進する。いわば祭典開始にあたるの挨拶の場所といつたところである。

職員通用玄関は、写真右の方であり、そこから渡り廊下で祈願殿に続いている。

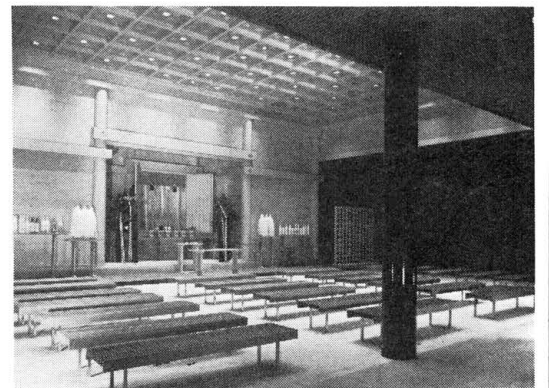
結婚式場側玄関は、斎館利用のために設けられたもので、写真左端にある。

齋館の内容は、和室七、洋室(応接室)一、計八室。その他、増設室、巫女更衣室、湯湯場、男子更衣室、湯湯場、食堂、厨



写真左 勅使館正面

下 祈願殿 祈願所



勅使館

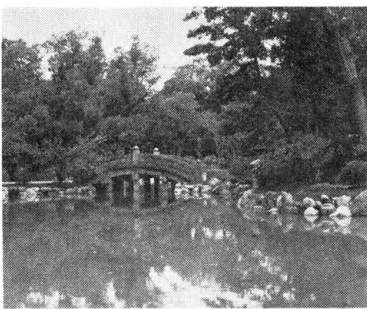
総建坪百坪。玄関、勅使ノ間、前室、和室、応接室、要膳所、配膳室、控室、パッケージ室からなり、勅使の間の前面には廊下がとつてある。

勅使の間、応接室及び要膳所の前面にはそれぞれ庭園が造園され、この庭の借景として、境内の心字池と榎木が視界のなかに入ってくる。

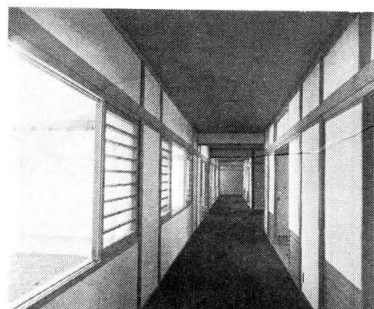
当社の勅使館には、要膳所が附属され、将来は貴重館としての利用も考えられている。

調度は貴重な櫛の一枚板が使用され、勅使館の建物に調和すべく苦心が凝らされている。

写真のように要膳所の直線的な机と椅子は厳肅な雰囲気をつくっている。



写真上 心字池西側から太鼓橋を望む



写真上 齋館廊下



祈願殿

祈願殿は坪面積六百坪。正面六メートル、高さ十メートル、屋根は流れ造り、鉄柱、コンクリート建築、冷暖房設備がしてある。

祈願殿は、参集所、祈願所、事務室の三つからなり、参集所は、参拝者が祈願の申込をする受付、守札等がある授与所、さらに祈願をする場所として、休養所等を総合して設計され、一部が二階になっている。入口は三ヶ所とも自動扉になっている。

祈願所は厚い深々とした絨氈が敷いてあり、椅子が立礼である。

一度百五十人が密々と坐つて祈願がかけられる。祈願所は写真のよとに和風である。

事務所は一般の社どかりは無い。この度の御願で電話機二十個を所に配し、自動交換機を入れ、無線相互、外線には○番発信できるようにしている。

また放送設備も完備され、各所の呼び出しを自由に行うことができる。

心字池

写真右 心字池東側から手水舎、被舎を望む

心字池はひょうたん形になっている。ひょうたんのくびれた所に太鼓橋がかかっている。考えよ、池面積は六百坪。底は鉄筋を入れたコンクリート造り。深さ一メートル半。池の廻りは大きな石を配置して、和風な感じを出している。

鯉、黄金鯉、錦鯉等三四が放たれ、これらがゆうゆうと廻遊している様は見事である。

この水際は清冽な流れで、常時池に注入されている。

無形文化財白水八郎氏

氏貞公御像を奉納さる

去る十月二十日博多人形師白... 白水八郎氏(真無形文化財)から宗... 像大社に宗像大宮司氏貞公像一... 奉納された。



立場の方だが、今年の一... 一月、宗像大社の大復興事業... 記に、博多人形の奉納をの... 博多を語る会の会員がの話し... に、快諾され、此の度の奉納とな... った次第のことであった。

人形は氏貞公の... 衣冠四十センチ、高... 衣冠七十七センチの... 座像で厳然とした... 表情。

話題の新車をみる

サブナナの巻

昭和四十六の数は五十七の数をこえ... 年八月における。その他も毎月最低... 普通・小型... 車でもクラウ... とかセブリン... か困難をわめ、これ等の車種... の中から八月五、〇〇台上下取... クという様に... 売されている。



ト高を余儀なくされるが安定... 性、居住性において大きなメリッ... と安易には取り取り、各社... の新車台帳は先月の間、各社... とである。

地図をひらげると、対馬と唐津を結ぶ線に壱岐があるが、... 対馬と壱岐と唐津が北九州市に在る海津線、さらに四門... から山口県角島町のひる海津線にまで開かれた海津線は... 壱岐半島、小笠原島、鳥島をのびる。宗像大社の三女神は、... 宗像大社の三女神は、天照大神と素戔嗚尊と天照坐尊とと誓約... したと云う。これに「海北」とは海に北に在る朝鮮半島... を指しており、したがって「海北道中」とは日本海を朝鮮... 半島に至る道の意である。

宗像大社改革事も完成最近... 進んだ中で、最後の仕上げとも云... うべき話設備の一端と、此度... の間に高さ六メートル、底辺の周... 折願殿入口側の大燈籠が移設さ... れました。

大燈籠を移設

折願殿駐車場入口に... 宗像大社改革事も完成最近... 進んだ中で、最後の仕上げとも云... うべき話設備の一端と、此度... の間に高さ六メートル、底辺の周... 折願殿入口側の大燈籠が移設さ... れました。

が、後者のルノは鹿島氏が支配していた。... 宗像神は出雲の豪族と密接な関係をもち、また天和朝... 延の成立は畿内の豪族の信濃の集り、先年、行なわれた神... 田村圓澄

神門前石燈籠奉納さる... 永島照子さん... 去る十月十八日、神門前の石燈籠... の奉納があった。

神郡宗像... 撰末社を訪ねて... 田熊神社... 一、由緒 宗像七十五社の社... たり、往住は出雲の大社と排例の... 社と云う。故に十月十二日に神事... あり、宗像年中行事記に見えた... 神社をたずねてみた。参拝の途... を、延平中今の社地に遷座す。

この燈籠の歴史... についての記すと... 明治四拾五年三月... に折願館中、氏子... 出来はである。

一、境内神社四社の... 貴船神社、貴船神社、貴船神社、... 一、境内神社四社の... 貴船神社、貴船神社、貴船神社、... 一、境内神社四社の... 貴船神社、貴船神社、貴船神社、... 一、境内神社四社の... 貴船神社、貴船神社、貴船神社、...



宗像大社歌会

俳句作品集 (10)

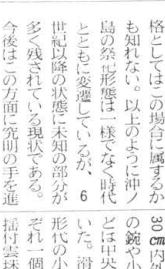
- 吉留 伊豆 英子
東京 小浦 瀨介
土穴 八尋 恒夫
田熊 安部 ユキ
東郷 有吉 春子
武 丸 野中 和子
東京 小浦 太平
津屋崎 菱花 女
津屋崎 井浦 良介
大井 吉田ますみ
吉留 伊豆 英子



沖の鳥
新発見のF号巨石の上
21号遺跡もこれに属する。

宗像神社沖津宮祭祀遺跡

昭和四十四年度調査報告
この遺跡は沖津宮の祭祀遺跡として、御願殿だけ大きく建設されたものであった。



遺物の中央の祭壇状遺構の上端に右の突出したのが、降階のけいり。

西側には土師の甕が、その東に器口が置かれており、鉄製品はかなりの量に散らばっている。

出光佐三 一問一答シリーズ

働く人の資本主義
出光 佐三
この意味は、出光に適用して、これは、こういふことになり。

宗像義庵先生百話

月はあるか
「Terao Teru」
「Terao Teru」
「Terao Teru」

出光
「私はいさくわがやがては、戦後、労働法ができたときに、やましくいわれた。

宗像大社歌会

俳句作品集 (10)
出光
「私はいさくわがやがては、戦後、労働法ができたときに、やましくいわれた。」

出光佐三 一問一答

働く人の資本主義
出光 佐三
この意味は、出光に適用して、これは、こういふことになり。

宗像大社歌会

俳句作品集 (10)
出光
「私はいさくわがやがては、戦後、労働法ができたときに、やましくいわれた。」

宗像大社歌会

俳句作品集 (10)
出光
「私はいさくわがやがては、戦後、労働法ができたときに、やましくいわれた。」